

少しの工夫と、大いなるチャレンジ精神をもって。

石橋 秀次

代表取締役 / 経営中心に全般

「児島というまちを、ジーンズで旗を揚げたいという若者を受け入れられるまちにしたい」という石橋代表。現在は営業や企画を中心に会社を経営していますが、創業当初は苦労も多かったそうです。「工場を立ち上げる時に、排水の問題で許可が下りず、稼働までに1年かかりました。その後、営業から加工まですべてに携わってきました。」そうした自身の経験から、もっと若いチャレンジ精神のある人を、広く受け入れられるまちにしていきたいと考えようになったそうです。

「例えば、児島動物園のようになったら面白いなと思って。いろんな魅力をもった個性あふれる動物たちがたくさんいて、その一員に自分もなれたらいいなと思っています。」

今後は更なる売上を目指し、環境配慮の製造加工、新しい製造加工の方法の創出、自社ブランドの世界進出など、新たな取り組みを進める石橋代表。

「アパレル業界は、外から見るほど華やかな世界ではないです。カッコイイというのは最終段階で、それまでは同じ作業の繰り返しだったりします。その魅力を感じ、その地道な作業の魅力を理解して日々経験を積み重ねていってほしいですね。」



もっと生の声

Q & A

—— 仕事をする上で大切にしていることを教えてください。
ものを触っていくと、感覚で感じ取れ、わかるようになることがあります。自動化されていくような時代の流れがありますが、肌感あってやはり大事だと思うんですね。少し古いかもしれないけれど、そういったことにこだわっています。

—— 若い人を育てる際に、意識していることはありますか？
加工は、職人の感性が表れるところです。一つのサンプルから、職人の数だけ三者三様のものが生まれます。また、加工の組合せでも様々な加工が生まれます。こういった機会を大切にするため、若い人には失敗しても、経験を繰り返すことで成長できるように、最初から止めないようにしています。

—— これからの繊維業界に従事する人へのメッセージをお願いします。
ジーンズは人を引き付ける魅力があり、奥が深いものです。そのため、いくらでも手をかけられるものです。ただ、お客様に提供するには制約もありますから、その決められた中で表現していく技を身につけていくことも大切です。そして何事にもチャレンジ精神を持ち、まずは一步を踏み出すこと、大きなことでなくても、ちょっとした工夫、小さな経験の繰り返しを大切にしていってほしいです。

